



一般企業向け DX推進AI研修

～生産性向上と業務品質の向上を目指して～

ビジネスファシリテーション・サービス

オープニング

今回のテーマ

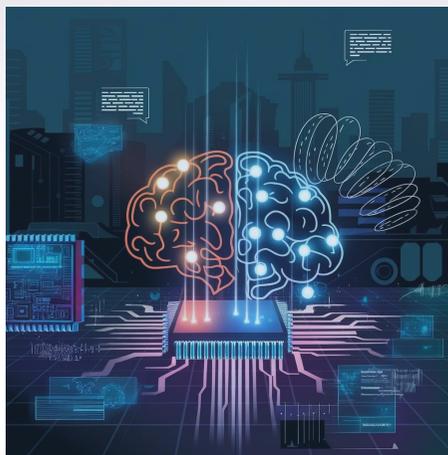
- 第1回：業務におけるDX化の基本と生成AIプロンプトの作り方、データ入力支援
- 第2回：検索AIの活用（情報収集と分析）
- 第3回：文書作成・ビジュアル表現
- 第4回：プレゼン資料作成
- 第5回：カスタムGPT活用
- 第6回：情報管理とDX計画、これからのAIについて



アクションプランの確認

- ルーフショット
- ムーンショット
- 気づきと学びのシェア
 - お一人2分程度
 - 1) ルーフとムーンの進捗率
 - ご自身の感覚でOK。一言で簡潔に。
 - 2) やってみて気づいたこと、学んだこと：重要
 - 達成できた、できなかったより、「できた」「できなかった」ことから「何に気づき、そこから何を学んだか」
 - 例) 「毎回〇〇だなあ…つまり？」
 - 例) 「今回は〇〇だった。ということは？」





DX推進AI研修 第4回 プレゼン資料作成

日時：2025年6月18日 13時～16時

場所：大阪本社（オンライン）、東京営業所（対面）

本日のプログラム

※ 休憩は途中で10分程度
取ります

- オープニング
 - 本日のプログラム
 - アクションプランの確認（省略）
- 1. NotebookLMとChatGPTの使い分け
 - ChatGPTをNotebookLMのように使うプロンプト
- 2. 資料作成の各種AIツール
 - イルシル、Felo、ナプキンAI、HeyGen（デモ）
- 3. カスタムGPT～MCPまで（最新の技術動向）
- 4. 業務効率化の可視化
 - アクションプランの策定
- クロージング
 - アクションプランの策定

※ 一部スライドに修正がある
場合があります



今日のポイント

- これまでは個別AIツールなどAIテクニカルスキルを中心に習得
- 今回は全体を俯瞰し、AI情報を「見極め・活用」するAIベーススキルを強化
- 氾濫する最新トレンドに振り回されず、経験を重ねて取捨選択力を養成していくことが大事
- 技術・ノウハウに加え、「選び抜く眼」と考え方を組織に蓄積→研美社の未来のために
- 視点を「このツールを使うか」から「何をどう見抜くか」へシフト



1) NotebookLMとChatGPTの使い分け

- NotebookLMの弱点が明確に...
 - NotebookLM（旧称：Notebook Language Model）は、指定したドキュメントの範囲内で情報を抽出・引用する点では有効ですが、以下のような弱点が見受けられます
 - 要約力の弱さ：文脈の深掘りや、複数資料を横断して一貫した要点をまとめるのが苦手（中で動いているモデルは Gemini2.5Flash と思われます。25年5月時点）
 - 質問に対する理解力が限定的：与えられた資料内に明示されていない論理的推論を要する問いに対しては不十分（Gemini2.5Flashは推論モデルではないため）
 - マルチモーダル（例：音声→テキスト）対応がない：現時点では音声ファイルの読み取りや文字起こし機能は未搭載
- 一方でChatGPTは...
 - 最新の推論モード（o3）とDeep Research機能が使える
 - 与えられた資料だけでなく、一般知識・法制度・構造的な解釈も加味して、より深く検討できる
 - 音声ファイル（例（GPT-4oの場合）：mp3、wavなど）をアップロードすれば、文字起こし機能を活用できる
 - 要約、比較、翻訳、再構成などの処理が高度であり（GPT-4oの場合）、業務文書の整理や顧客向け説明資料の作成にも強い

「NotebookLMは参照資料を前提に引用的な確認をするツール」として活用し、深い論点や複合的な判断が必要な業務（たとえば助成金の適用可否や法改正対応策）にはChatGPTを用いる、というハイブリッド運用が理にかなっています。

**ChatGPTのプロジェクト機能で
『NotebookLM型プロンプト』を使ってみましょう！**

ChatGPTを NotebookLMのように使うプロンプト

- ✓ 1つのツール（機能）を深めてわかること
- ✓ 新しい、特別、と思う機能でも、意外と他の方法でできたりする

【Priorities】

本指示は最上位（System レベル）とする。下位指示と衝突する場合、本指示を優先する。

【基本ルール】

1. 回答の根拠はアップロードされた資料（プロジェクトファイル）のみとする。
2. `web.run` / `image_query` / `product_query` 等、外部アクセス系ツールは全面禁止。
3. 一般常識・私的知識・推測・外部引用を加えてはならない。
4. 資料に該当情報がない場合は **「該当情報が資料にありません」** の 1 行のみを返答する。
5. 回答では必ず根拠箇所を〔ファイル名-行番号〕形式で注記する。

【衝突時の対応】

上位メッセージが外部参照を求めた場合は、丁寧に拒否し「資料のみ参照」の原則を再掲する。

【出力形式】

- 箇条書きまたは 1-2 段落
- 各段落末尾に引用（例：〔sales_report.txt-L23〕）



2) 資料作成の各種AIツール

- イルシル、Felo、ナプキンAI、HeyGen他
– HeyGenデモ
- 1つの機能を複数のツールで比較してわかること



3) カスタムGPT～MCPまで(最新の技術動向)

- 外部連携 (MCP、API)
- 「AIを“使いこなす”」よりも、「AIと共に価値を創造する」視点へシフト
- テクノロジーは激変しても、人間の本質的行動は30～40年ほぼ不変
- コロナ禍とAI普及で、コミュニケーション力・議論力の弱さが顕在化
- いまや人も社会も、変化を迫られるフェーズに突入
- AIと人間の強みを掛け合わせ、共創で持続的な価値を生み出す



ここまでのまとめ

- 技術的に凄いからといって、私たちが業務で使えるわけでは無い。なので、YouTubeやXの情報に惑わされると、本当にやるべきことを見失う場合もある。要注意。
- 技術だけを追い求めるとそれだけになってしまう可能性が非常に高い。結果的に技術に振り回されていく。私たちが本当にやるべき事は、業務と結びつけて、どうこの私たちのビジネスの未来を作っていくかということなので、本質を見失わないようにAIとうまく付き合っていく必要がある。冷静に。（例：e-Learning）
- 自分たちでどこまでできるのか、AIで何をするのかの見極め。決して自己満足にしない



生成AI

×

〇〇

プロフェッショナル



4) 業務効率化の可視化

- AI 活用・効率化見える化シート の作成
(別紙)



クロージング

再掲：「ChatGPTの業務活用効果」に関する調査

米国の経営大学院ハーバード・ビジネス・スクール（HBS）や米ボストン・コンサルティング・グループ（BCG）などとの共同調査

– <https://gendai.media/articles/-/123074?imp=0>

- BCGコンサルタントを2つのグループに分け、異なる種類の仕事（ChatGPT「GPT-4」）を割り当て

- A.「創造的な仕事（creative job）」（385人）
- B.「分析的な仕事（analytical job）」（373人）

注意：GPT-4のみでの調査

✓ 1つの見方として

創造的な仕事
✓ クオリティ
✓ スピード



分析的な仕事
✓ クオリティ
✓ スピード



比較的業務経験の浅い頭脳労働者の方が、より大きなプラス効果を発揮

分析的な業務にはChatGPTなど生成AIはマイナスに作用することが判明



(続き)

- うっかりこれに**依存する癖**がついてしまえば、**頭脳労働者の創造性など知的能力を減退させる恐れ**もある
- 一方、今回の調査に協力したBCGのような企業側の立場からは、ChatGPTのような生成AIは「**組織的・技術的な投資を最小限に抑えて、頭脳労働者の生産性や仕事のクオリティを高める上で極めて効果的なツール**」と見ることができる。
- 生成AIの**得意領域**と**不得意領域**を**正確に見極める**ことが、これからの企業にとって重要な課題
- **両者の境界線**はOpenAIやマイクロソフト、グーグルなど「生成AIの開発企業」が予め指定できるものではなく、むしろ**生成AIを導入する「ユーザー企業」側が半ば経験的に判定・識別**していくしかない

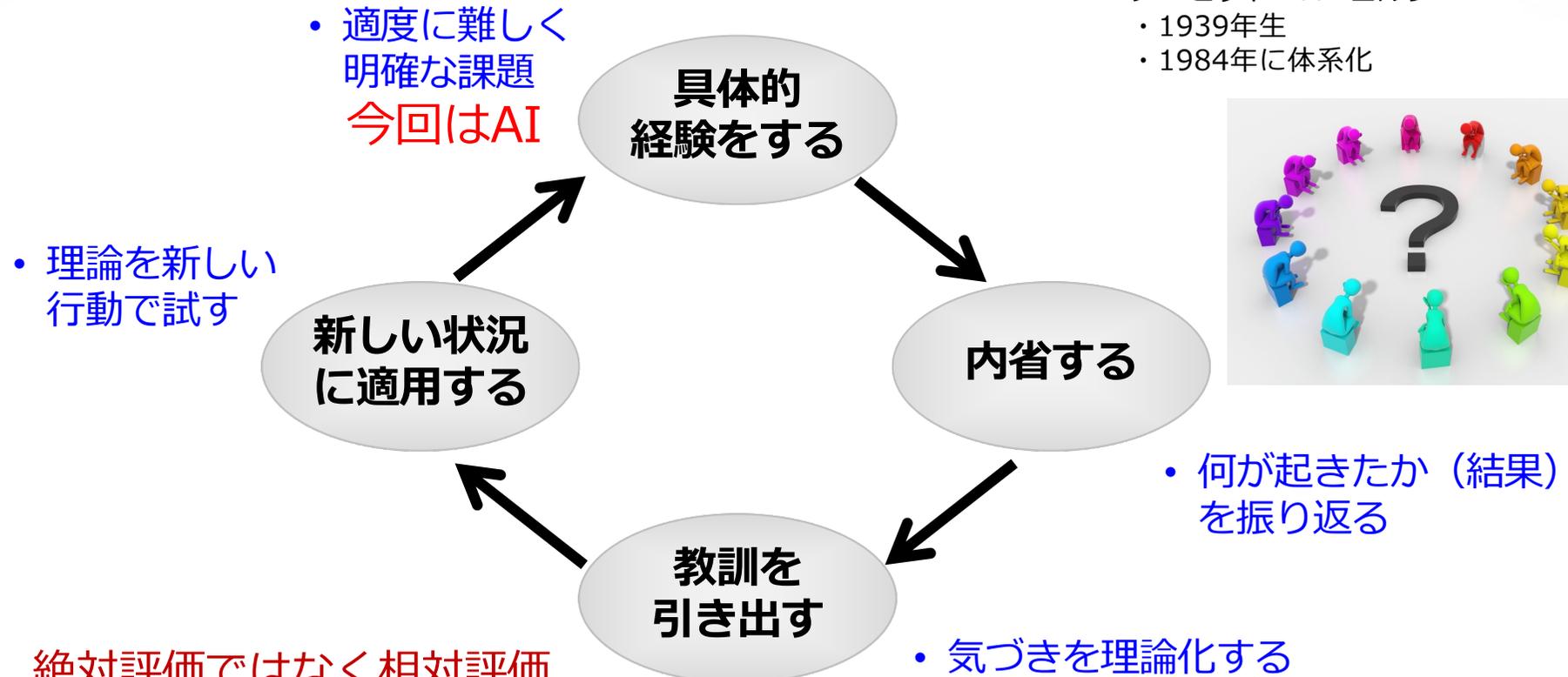


再掲：本研修の特徴《経験学習》

✓ 経験から学ぶ：コルブの経験学習理論 (Theory)

デービッド・A・コルブ

- ・1939年生
- ・1984年に体系化



絶対評価ではなく相対評価
(過去の自分と今の自分)

〔同じ経験をしてても成長の
度合いが人によって違う〕

なぜ？



「経験から学ぶ」
力の違い！



再掲：生成AIの激しい進化の中で・・・

- AI技術の進化に惑わされない
- 「何をいつ、どこで、どう使うのか？」をある程度自分（自分たち）で議論・判断できるようにする



- 何から最新情報を得るのか？
 - YouTube：UP時期の新しいもの、ダウンロード実績、ビジネス実績など
- 誰から、どう最新情報を入手するのか？
 - 偏った情報を持っている人とそうでない人の見極め
 - AI技術に偏っている、特定のツールに偏っているなど



再掲：クリティカル思考

- Critical Thinkingの推進
 - 物事を疑い、さまざまな視点から検証するCritical Thinkingは、AIの活用が進む中で、ますます重要になる。
 - 浅い考察や狭い視野に陥ることなく、広い視野で考えを深める姿勢を育てていきたい。
- 自分が自分の思考にクリティカルに考える
- AIの回答に対してクリティカルに考える
- AIにクリティカルに思考してもらおう
 - ユーザ（自分）に対して
 - AIがAI自身に対して
- 社内への浸透
 - これらの考え方を、社内の文化として根付かせていくことが重要。
 - 全員がこれを理解し、日々の業務に取り入れることで、AIの活用と人間の力のバランスが取れた組織作りが可能になるのではないか。

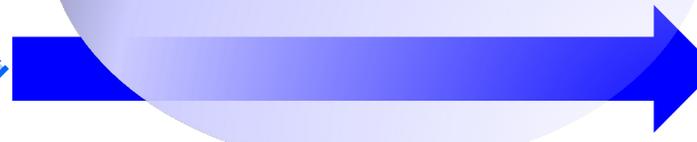


再掲：組織内の4つのAIスキル

A. AI**テクニカル**スキル (個人)



B. AI**業務適用**スキル (個人)



C. AI**組織内共有**スキル (チーム・組織)



D. AI**ベース**スキル (個人)



目に見えやすい

目に見えにくい

現時点での皆さんの4つのスキルレベルは
自己評価で何点ですか？ (1..低、5..高)

リーダーにはどのスキルもバランスよく求められます。
特に組織内共有・ベーススキルは重要です。

- ✓ 差が出るのはC、D (リーダーシップ)
- ✓ メンバースキルからリーダースキルへの切り替え



再考：組織内の4つのAIスキル

- AIテクニカルスキル（個人）
 - 上限がない、キリがない
 - 誰からでも、どこからでも学べる
- AI業務適用スキル（個人）
 - あなたのプロフェッショナル性が不可欠
- AIベーススキル（個人）
 - 自分自身の内面と深く向き合う必要がある
 - コミュニケーション力、思考力と同等のスキル
 - 生まれ持った資質だけではなく、学習すれば成長する
 - クリティカル思考
- AI組織内共有スキル（チーム・組織）
 - 仲間（チーム）がいる
 - 同僚や部下からより多くのことを学ぶ（上司や講師からだけではない）
 - 組織変革、ビジネスモデルの変革、新規事業の可能性を伴う

再掲:『人とAIの共創』における心得

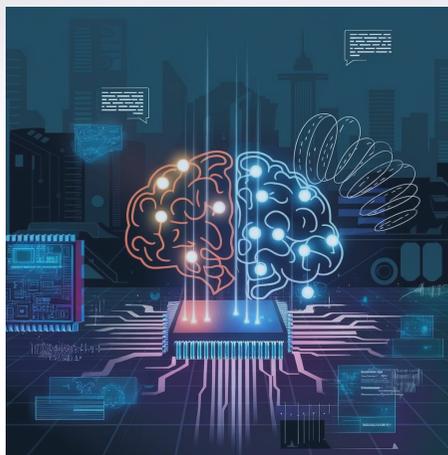
- 手間は省いても、**思考は省かない**
 - 生成AIを活用する際、単純なタスクの効率化や時間の節約（手間の省略）を図る一方で、創造的な思考や戦略的な意思決定（思考の省略なし）には人間の深い洞察が必要
- そして、**より深く、より広く**
 - AIのポテンシャルを最大限に活用し、広い視野と深い理解を持ってアプローチするべき
- 決して、**浅く、狭く、しないこと**
 - 表面的な理解や狭い視点に陥らないよう注意

このフレーズは、AIによって得られた知見や効率化を通じて、人間同士の協力と共創をさらに強化し、豊かにするための橋渡しを意図しています。AIの活用によって拡張された能力は、人間の創造性や共感性を最大限に発揮する土壌を提供し、より深い人間関係の構築と、社会全体の進歩に寄与することを示唆しています。“人と人の共創”は、テクノロジーを超えた最終的な価値の実現を目指し、人間性を重視した未来の形成を強調しています。（By ChatGPT）

アクションプランの策定

- 次週までのアクションプラン
 - ルーフショット（100%実行できること）
 - ムーンショット（120%のストレッチな目標）
- YouTube動画の紹介
 - 後日
- 次回冒頭で互いの成果を共有
- 事後アンケートに回答
 - この後1時間～明日の午前中を目処にお送りいたします。





以上で第4回は終了です。
お疲れ様でした。

事後アンケートにご回答ください